

# 「建設の施工企画（旧誌名：建設の機械化）」誌 創刊号紹介

機関誌編集委員会

（社）日本建設機械化協会機関誌「建設の施工企画（旧誌名：建設の機械化）」誌は、今から59年前の昭和24年7月1日に発刊された。

日本建設機械化協会は昭和24年3月に任意団体「建設機械化協議会」として、東京都千代田区丸の内二丁目丸ビル513小松製作所内に事務所を構え発足したが、翌25年8月に社団法人建設機械化協会として設立許可がなされ、昭和27年7月に社団法人日本建設機械化協会に名称変更され、現在に至っている。

建設機械化協議会発足後僅か4ヶ月でタブロイド判4頁もの機関誌が創刊されたという事及びその記事の内容から、当時協議会の設立が如何に期待されていたか、又協議会が建設の機械化及び建設機械産業を戦後の日本復興の切り札にしようと奮起していた様子が見て取れる。

幸いな事に「建設の施工企画」誌は創刊号から全て当協会に残されており、それらをひもとく事によって先人の足跡が見て取れ、興味は尽きない。

ここに「建設の施工企画」700号記念誌の発行に当たり、創刊号の内容を紹介してみたい。

本号では創刊号全4頁を巻頭のグラビアに掲載したので、参照願いたい。

## 1. 創刊号の目次

建設機械化協議会設立趣意書

創刊号に寄す ……通商産業大臣 稲垣平太郎  
国土再建と機械力の活用 ……建設大臣 益谷秀次  
会長就任に際して ……建設機械化協議会会長 谷口三郎  
発刊の辞 ……機関誌発行人 金森誠之  
建設機械化協議会内規

建設機械化の急務 ……建設省資材課長 飯塚主計  
国土へそそぐ愛の心 ……国行一郎  
建設機械化に望むもの ……農林省開拓局技官 玉村英夫  
建設機械の発明 ……（機関誌発行人）金森誠之  
ニュース

㊦の動きについて ……

……………経済安定本部部会幹事 加藤三重次  
需給調査について

……………経本建設局計画課長調査部会長 伊藤剛  
会員及び役員の現況

経過報告 ……事務局  
建設機械の改良（1）…三菱重工業(株)東京機器製作所  
清水四郎

2立方メートルワエキスカベーターについて  
……………日立製作所亀有工場 大西昇

建設工事へコンベヤーの利用に就て  
……………四国機械工業(株) 河村喆  
編集後記

## 2. 掲載記事内容紹介

創刊号の中から、下記3点の記事を全文詳述する。

### （1）建設機械化協議会設立趣意書

終戦後、資材の不足とインフレーションに禍され建設事業は遅々として進まず、年々頻発する災害のために貴重な国富は喪失し、国土は正に荒野と化せんとして居ります。国土復興経済再建こそは国民総ての念願であります。台風に基づく災害復旧と云い、この度連合軍総司令部より要請された道路補修五ヶ年計画の実施と言い、何れも時間的に制約を受けており、之等事業の膨大なる量と合わせ考える時、これが達成には機械化された施工法によられねばならぬことは明であります。

狭小なる国土に膨大なる人口を擁し、自立経済を確立せねばならぬわが国の現状に於いては開拓事業の重要性は論を俟たぬ所であり、運輸港湾の開発更に又経済復興のエネルギー源たる石炭電力の増産、就中水の開発は前述の災害の対策と合わせ考える時、最も急を要するものの一つであり、何れも機械力を活用せねばならぬことは明であります。

右の如き膨大なる事業を達成せねばならぬにも拘わらず旧態依然として唯単に人力にのみ依存するなら

ば、莫大なる資金を要し、今後強力に遂行せねばならぬ経済九原則の一たる「予算の実質的均衡」の趣旨よりして工費の節減は絶対に必要であり、ここに人力依存より機械力依存に切換えねばならぬ必然性があることは言うまでもありません。

従来我国に於いては失業問題の見地から建設工業の機械化を否認する向もありますが、かかる考え方こそ非科学的な見方であり、建設機械化の確立は寧ろ都市に於ける失業問題解決の一助ともなるものであります。

一方、建設機械の生産状況を考うるに戦時中は凡ゆる工業が軍需目的に動員されたため、建設機械の整備は一時等閑に付されて居りましたが、軍需生産を中止せる今日、兵器の生産を通じて獲得した技術を以てその生産に邁進するならば、必ずや近き将来優秀なる国産建設機械を大量に生産して唯単に国内の需要を満し得るのみならず、更に進んでは諸外国に輸出しこれ等の国々の復興に協力することが出来ると考えられます。

右の如く考うる時は実に建設機械工業は最も重要な工業の一と称し得べく、これが育成強化こそ現下の急務であると信ずる次第であります。

歴大なる建設事業の迅速なる遂行と建設機械工業の育成強化とは唇齒輔車の関係に在り、経済九原則を強力に推進せねばならぬ吾が国としては本原則の主旨に沿い、有効適切に之を達成しなければなりません。

茲に熱意ある関係各位の頭脳を総動員して、官民打って一丸とせる強力なる「建設機械化協議会」を設立し、平和国家建設に寄与せんとするものであります。

右、本会趣旨に御賛同を賜り叙上の目的達成のため、進んで総合対策を調査研究せられ、以てこれが実行に移すための推進力たらんことを御願する次第であります。

## (2) 会長就任に際して

### 建設機械化協議会会長 谷口三郎

わが国の現段階に於て、建設機械化ということは、最も重要な切実な問題であります。今回関係官民同志の各位が、その普及発達を促進する目的をもって、本会をつくられたことは、日本経済自立促進のために欣ばしいことでありまして、これに努力されました方々に厚く感謝の念を表する次第であります。私は図らずも御推挙に依って会長に選任されましたが、微力でありますのでこの重任に対し皆様のご期待に副うるか、実の所心配致して居ります。皆様の機械化に対する熱心な御協力に御願ひして、相携えて本会の目的達

成のために邁進致したいと考えております。

この機会に最近この建設機械化に関連して考えていることを述べて、御挨拶につけ加えたいと存じます。

1. 終戦後現在に至る迄の経過は御承知の通り、米国の援助と吾が国民の努力とで、漸く危機を脱しつつある状態であります。

然し、この間の諸施策は財政、経済、社会等何れも終戦の困窮とその後連続した水害、震災、火災、凶作等の災害から脱するための応急的措置を主としたものであって本格的なものは極めてすくないといわざるを得ないのであります。

従って真の意味の自立経済を確立することは、今後の努力に俟たねばなりません。各種生産を増強し、赤字を解消して国全体の経済を自立するためには、凡ての事業面に於て、内外の状況を見通して徹底的に合理化することを必要とします。又これらの生産活動を保護する防災施設や誘導促進する交通施設などの公共諸施設が必要になるのであります。即ち、生産施設と公共施設とを国土計画的に行って、人的物的両面の生産性を極度に向上させることが必要であります。

これには複雑な各種の施策を要するのは勿論であります。建設面から考察しますと、非常に歴大な量の建設が伴います。即ち在来生産施設の改善、新工場の建設、各種地下資源開発施設、水力、火力発電設備、上下水道、工業用水施設、農地開拓、改良事業、砂防工事、河川工事、各種災害復旧工事等、その何れの一つだけでも莫大な量であります。これらを調和し、よく順序を立てて有効に進めて行かねば、本格的な厚生経済は生まれて来ないのであります。従って、吾々はこれらの歴大な建設と取組んで、最も効果的に進めて行くことに最善の努力を払わねばならないのであります。本会はこの実行方法を極力機械化することを提唱し、その促進を目的として今回発足したのであります。

2. 歴大な建設事業を、従来のように人力を主とする方式に進めましては、第一時間的に間に合いません。第二に費用がかさんで赤字克服が困難な大工事大建築業は実際上不可能であります。従ってこの建設を機械化して、早く安く進めるということは今後の建設のために必成を期せねばならぬことであります。機械利用の実績は既に内外に於て顕著でありますから、今更茲に述べることを省略致します。然るに従来日本の建設機械化を顧みますと、大正から昭和の初めにかけてその機運は大分起こったのであります。その後失業防止の観点から、人力を主とする方針に転換されたために、折角の機運をくじかれ、爾来再起の機会を得ずに事変が起り、戦争となって今日にな

りました。その結果、機械利用ということは米国に比べて見ますと大変に遅れております。然し、明治大正の時代から培われた機械利用技術と機械製作技術とは現在全国に相当に存在しておりますから、吾々はこれからを基礎として更に一般の工夫を凝らして発達と普及とを画期的に進めねばなりません。

建設機械化の目的を達するためには機械の使用に依って大量の建設を完全且迅速に成し遂げ、その上に人力の場合よりも全体の費用を遥かに経済的に仕上げ得るようにせねばなりません。左様な良い機械を作るためには優秀な設計及び工作技術と工作設備がいります。その上資材や資金の獲得が必要です。

機械を使用する技術、修繕する技術、それらの訓練、機械の販売普及にも努めねばなりません。これらのことが渾然一体となって進んで始めて機械化の目的を達し得るのであります。由来実用機械の進歩につきましては、兎角製作技術と、これを使用する技術とが完全に連絡しない傾向がありました。このことは、自動車のような普及した機械でも各所にサービス・ステーションが必要であるのを見ても明瞭であります。

本会は如上の機械化に関係ある官民凡ての方面を網羅し、各専門知識を結集して、機械化促進を実現する

目的で今回発足したのであります。

### (3) 発刊の辞

#### 機関誌発行人 金森誠之

「建設の機械化」は建設機械協議会の機関誌として発足致しました。協議会の内に向かって色々御知らせする役目と、一般社会に向かって建設機械の認識を深めようとする二つの使命を持って居ります。

由来建設機械の発達は、他の機械のそれに比べて恐ろしく後れて居りまして、ものによっては二、三十年前の姿そのままのものさえあります。これは仕事をする側は機械を知らず、機械側は仕事の実相を充分明らかでなかったためであります。

誌面は機械と建設とを繰り返させる仕事に役立つ、建設機械発展進歩の一つの役割りをしたいつもりです。技術上、学術上のニュースは勿論、どんな機械の必要とする仕事があるか？、機械は又どんな工合に作られて行ってるか？のニュースをお知らせ致します。又どんな機械がほしいか、どんな工合に機械を使って貰いたいかの建設と機械両面からの声を聞かして下さい。それを紹介することに役立ちます。狭い紙面ながら、有益で朗らかな進み方をし度いつもりです。

## 橋梁架設工事の積算

——平成 20 年度版——

#### ■改定内容

1. 共通（鋼橋、PC 橋）
  - ・ 共通仮設費率の改訂
  - ・ 架設用仮設備機械等損料算定表の改訂
  - ・ 機械設備複合損料の改訂
2. 橋種別
  - 1) 鋼橋編
    - ・ 設備損料の諸雑費の改訂（ケーブルクレーン、送出し設備、門型クレーン、トラベラクレーン等）
    - ・ 架設桁組立・解体歩掛の改訂
  - 2) PC 橋編
    - ・ プレグラウト PC 鋼材縦締工歩掛の新規設定
    - ・ コンクリート床版の炭素繊維補強工法の吊

#### 足場改訂

■ B5 判／本編約 1,120 頁（カラー写真入り）  
別冊約 120 頁 セット

#### ■定 価

非会員：8,400 円（本体 8,000 円）  
会 員：7,140 円（本体 6,800 円）

※別冊のみの販売はありません。

※学校及び官公庁関係者は会員扱いとさせていただきます。

※送料は会員・非会員とも

沖縄県以外 600 円

沖縄県 450 円（但し県内に限る）

### 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8（機械振興会館）

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>